

警察と連携した事故対策により対策効果が向上

- ・国道116号新潟西バイパス(上り線)は、下り勾配のカーブとなっており 速度超過等による交通事故が発生していた。
- ・平成24年に入ってから4月以降に6件の事故が発生し、うち2件は大型トラックの事故で、長時間通行規制となった。

- ・この状況を踏まえ、**警察と連携し速度抑制及び車両の交錯抑制を目的とした対策を実施。**
- ・対策により、走行速度の低下(3~13%)とカーブ区間の車線変更の減少(63%)を確認。

事業箇所と対策内容



位置図



H24.7.15の事故

↓新潟市中心部
 <新潟西IC上りループ部>
 ・設計速度50km/h
 ・曲線半径80m
 ・縦断勾配2.9%

上り線ループ部

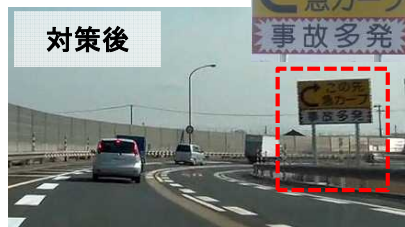
【対策箇所の道路状況】

- カーブ手前に大型注意喚起標識を設置し、カーブ進入時の速度を抑制することにより、速度超過による「車線逸脱」、「横転事故」などの防止を図った。
- カーブ区間の区画線を進路変更禁止に変更し、カーブ区間での車線変更を抑制することにより、「追突事故」、「接触事故」などの防止を図った。

カーブ手前



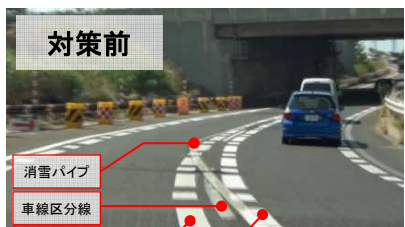
対策前



対策後

H24.8.11に新潟国道が実施した速度抑制注意喚起看板

カーブ区間



対策前

消雪パイプ
 車線区分線
 ドットライン



対策後

H24.11.17に新潟県警が実施したはみ出し通行禁止対策

整備効果

※対策前2012年8月27日、対策後2013年3月19日
 いずれも6時台~8時台の大型車を対象に集計・分析

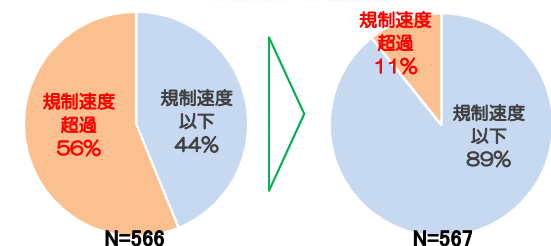
大型注意喚起標識により走行速度が低下！

- 対策により平均速度が低下。
- 特にカーブ区間では6.6km/h (13%)低下したことで規制速度を下回り、走行安全性が大きく向上。



- 対策前に半数を超えていた「規制速度超過車両」の割合は、対策により45ポイント減少し、規制速度を遵守している車両の割合が大幅に向上。

※当該区間の規制速度は50km/h



進路変更禁止標示によりカーブ区間での車線変更が減少！

- カーブ区間での車線変更台数の割合が大幅に(63%)減少。
- これにより、カーブ区間での接触事故等の危険性が低下することで、接触事故や追突事故等の低減効果が期待できる。

